

令和2年3月31日

(あて先) 熊本市長

団体名 NPO法人ガット

代表者 職名 代表 氏名 西村 るり



熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

平成31年4月1日付け指令(地活)第1-7号により、熊本市市民公益活動支援助成金

の交付決定*を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第21条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

1 助成事業名

ステップアップ助成
熊本市立小・中学校の学校図書館活性化事業

2 助成事業の実施期間

平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日

3 助成事業の内容

熊本市内の小・中学校の司書、学校図書館担当者を中心に本事業の計画を提案し、希望校を募った。実施校を決定し、視察を行い、課題を把握して改善内容と方法を考えた。実施校は、帶山西小学校、日吉小学校、飽田南小学校、奥古閑小学校、豊田小学校の5校であった。2月には、全国学校図書館協議会事務局長を招き、熊本市立小・中学校の図書館関係者を募って、学校図書館活性化に向けた講習会を開催した。その後、事業のまとめとして広報誌やホームページで学習内容の報告をした。

4 事業の成果

相談事業後、各学校で図書館のリニューアルが進められた。子どもたちも先生方も生まれ変わった図書館に驚き、とても喜ばれたそうである。来館者が増え、読書はもちろん、授業での図書館活用が活発になったと聞き、私たちも大変喜んでいる。

講習会は情報活用に関する内容だったので、参加者の皆様から授業でやってみたいとの感想を多くいただいた。これからも、子どもたちの一番身近な図書館を充実させ、子どもたちの健全育成に少しでもお役に立てるよう努力したいと思う。

5 助成事業の実施状況

- (1) 事業収支決算書(様式第16号)
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
- (3) その他参考となる資料

事業報告書

実施年度	2019 年度
事業名	熊本市立小・中学校の学校図書館活性化事業
事業期間	2019 年 4 月 1 日 ～ 2020 年 3 月 31 日
事業の目的	子どもたちの豊かな心の育成のために、読書は大きな役割を担っている。学校図書館は、子どもたちにとって読書の森であり知識の泉となる。しかし、実際には学校図書館が本来の役割を果たせていない場合が少なくない。それは、学校図書館を整える時間が取れなかったり、うまく機能させるためのスキルが活かされていなかったりするためである。魅力的な学校図書館づくりをすることで学校図書館が活性化し、子どもたちはますます読書に親しみながら心を育み、本で学びを深めることができるだろう。子どもたちが集まる楽しい学校図書館づくりをすることは、子どもたちの健全な育成のための一助となると考えている。
具体的な事業内容	熊本市内の小・中学校の司書(司書補助員)、学校図書館担当者を中心に本事業の計画を提案し希望校を募った。相談事業実施校については、まず視察や相談内容をとおして課題をとらえ、改善内容を検討した。次にガットが改善案を作成し、実施校に回答した。運営のための準備として、遮光のためのブラインドの取り付けや目隠しシート貼りを中心に作業を行った。また、全国学校図書館協議会事務局長を招き、熊本市立小・中学校の図書館関係者を募って、学校図書館活性化に向けた講習会を開催した。 事業1 学校図書館相談事業 ①相談事業のチラシ郵送137校(6月) ②実施校決定 ③相談内容検討 ④相談内容回答 ⑤準備作業のサポート 実施校①7月20日帯山西小 ②7月24日飽田南小 ③7月27日奥古閑小 ④8月7日日吉小 ⑤12月27日豊田小 時間は各校とも視察・準備作業 3～4時間 事業2 学校図書館の改善の工夫・図書館の効果的な活用法等についての講習会 ①講習会案内チラシ郵送137校(12月) ②講習会「学力をのばす美術鑑賞 ヴィジュアル シンキング ストラテジーズ」 2月15日 13時～16時(準備片づけを含む) くまもと県民交流館
実施場所	事業1 帯山西小学校、飽田南小学校、奥古閑小学校、日吉小学校、豊田小学校 事業2 くまもと県民交流館パレア
事業の効果・公益性	当事業を通して、学校図書館が魅力的なものとなり、子どもたちが親しみをもって図書館を利用することで、読書への関心が高まっていくと考える。また、学校図書館に関わる学校職員の意識向上により、子どもたちへの読書指導や図書館を活用した調べ学習が、より充実していくと思われる。さらに、相談事業後の講習会をもつことによって、学校間のつながりもできるだろう。各学校の取組みを紹介し合ったり共有したりできれば、より一層児童生徒の学校図書館利用が活発になっていくであろう。
次年度以降の事業展望	現在のところ、ガットスタッフの多くが現役の教職員であるので、本事業で対応できる学校数は、5校程度と限定される。しかし、講習会を開催することにより、改善内容のノウハウは、多くの学校に広がっていくだろう。したがって、本事業を継続していくことにより、熊本市内全部の小中学校図書館の機能が高まり、児童生徒の学びの質や読書意欲の向上に寄与することができるだろう。また、学校図書館だけでなく、公民館や児童館などともつながり、それぞれの良さを共有できるようにしていきたい。
事業への想い (当事業によってどのような熊本市にしていきたいか)	本事業は子どもたちが集まる学校図書館づくりであり、そこに集まる子どもたちを中心に人と人がつながる大切な場をつくることでもある。近年、学校図書館は教室に入れない子どもたちの癒しの場としても活用されている。また、読み聞かせボランティアの方々やお話し会の方々のご協力によって、読書が苦手な子どもたちも読書体験ができ、読書の楽しさを味わうことができている。学校図書館に携わる人や地域のボランティアの人やお話し会の方々と連携により、本で人と人がつながる心豊かな熊本市にしたい。

事業収支決算書

◆収入決算

項 目	金 額 (円)	内 訳
会費	0	
当該事業による収益	0	
当該事業に対する寄附・協賛金	80,000	¥20,000×4人＝¥80,000
その他の自己資金	24,479	
当該事業に対する助成申請額	202,000	
その他の補助金、助成金等【D】	0	
合 計	306,479	

◆支出決算（事業別）

事業名 支出費目	事業1	事業2	事業3	合計
	学校図書館相談 事業	学校図書館の改善 の工夫・図書館の効果 的な活用法等につ いての講習会		
人件費	75,200	5,000		80,200
報償費	0	10,000		10,000
旅費	0	50,000		50,000
人件費等合計【A】	75,200	65,000		140,200
役務費	11,412	10,584		21,996
使用料・賃借料	0	4,530		4,530
事務・消耗品費	109,935	29,818		139,753
委託費	0	0		0
合計	196,547	109,932		306,479

助成申請上限額（助成種別：ステップアップ助成）

$$〔事業費 306,479 - 控除額【E 0】〕 \times 2/3 = 204,319$$

※控除額…超過人件費（人件費等の合計が事業費の1/2を超えた部分）とその他助成金の合計

人件費等の合計【A】	140,200	→	超過人件費【C】※	0
事業費の1/2【B】	153,239		その他助成金【D】	0
超過人件費【A-B】…【C】	-13,039		控除額【E】	0

※マイナスの場合は0円

◆支出内訳（事業別）

事業1〔 学校図書館相談事業 〕

人件費	¥3,200×19人+¥2,400×6人=¥75,200
報償費	なし
旅費	なし
役務費	送料¥82×48枚+¥84×89枚=¥11,412
使用料・賃借料	なし
事務・消耗品費	チラシ¥2,192 材料費¥64,548 図書購入費¥22,565 カラーインクカートリッジ代¥9,720 用紙代・事務用品代¥10,910
委託費	なし

事業2〔 学校図書館の改善の工夫・図書館の効果的な活用法等についての講習会 〕

人件費	¥500×10人=¥5,000
報償費	講師1人¥10,000
旅費	東京往復航空運賃+宿泊費=¥50,000
役務費	送料¥84×111枚=¥9,324 鑑賞カード郵送料¥1,260
使用料・賃借料	¥4,530
事務・消耗品費	チラシ代¥1,210 集団テキスト購入費¥15,000 カラーインクカートリッジ代¥9,720 用紙代・事務用品代¥3,888
委託費	なし